

原稿校了後の前兆変化について

八ヶ岳南麓天文台 Yatsugatake South Base Observatory 山梨県北杜市大泉町谷戸8697-1 研究室 FAX 0551-38-4254
Astronomical Observatory: SINCE 1985 Earthquake Forecast Observation & Research: SINCE 1995

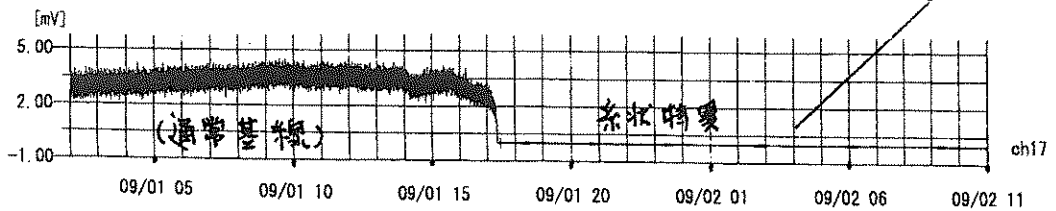
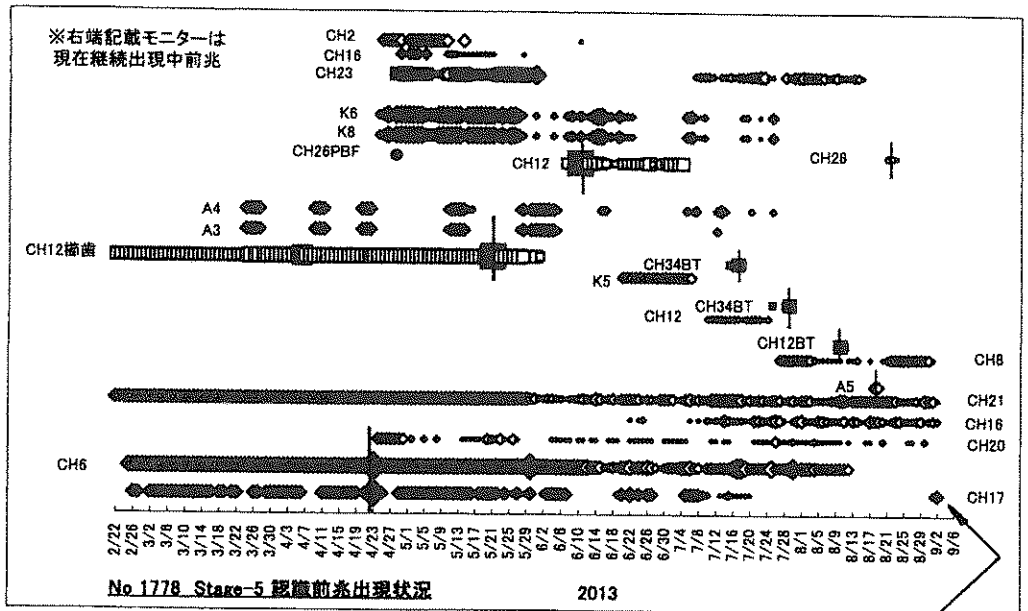
No.1778 近畿圏地殻大型地震の可能性推定前兆 続報 現況報告
前兆継続 新たにCH17糸状特異→第6ステージ移行の可能性

2008年7月から出現しだし、現在まで5年2ヶ月と云う過去例の無い(最長記録は2008年発生の岩手宮城内陸地震の際の3年3ヶ月継続)長期に渡る前兆継続が認められる特殊前兆の続報です。

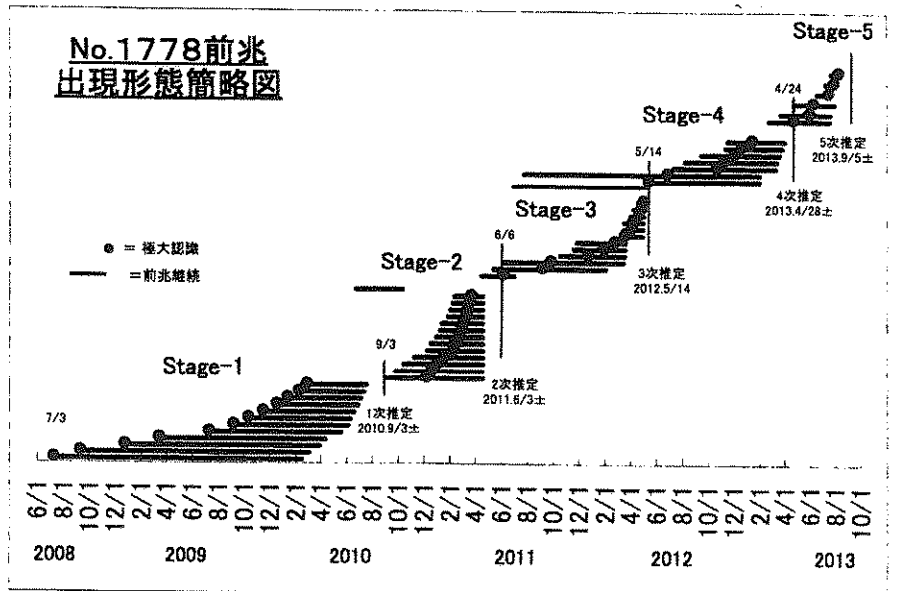
前兆形態は通常はひとつの地震に対し主な前兆変化としては、山形となり、極大はひとつですが、当該No.1778前兆は右下図に示すとおり、現在までに5段階(5ステージ)の前兆群が出現し、各前兆群(ステージ)内に10を越える極大が観測されると云う、団塊的な前兆形態と、多数極大と云う全く過去例が無い、極めて特殊な地震前兆形態と認識されます。

各ステージ(前兆群)の変化から、前兆初現~極大又は前兆極大~終息どちらかの時間変化が認められ、今までの時間変化経験則を使用しますと、各々のステージで各々ある時期が示されました。その時期に次ステージの極大が出現する等して、現在まで5ステージ前兆群が出現して参りました。現在の第5ステージ前兆群からは、9月5日~6日±が示唆され、この時期に対応地震発生となるのか、又は次の第6ステージに移行するのか注目していました。もしこの時期に発生となる場合は、計算上9月2日夕刻までに前兆終息が示唆されます。しかし、本日9月2日夕刻現在、CH8, 16, 21 に特異状態が継続しており、更に本年7/21以降完全静穏だったCH17基線が右上波形のとおり、9/1 17時過ぎから基線の振幅が無くなる糸状特異が出現しだし、現在も継続しています。

このことから、第5ステージが示す9/5-6±は地震発生時期ではなく、第6ステージ以降に移行する可能性が極めて高い見解です。右図の第4行~と第5行~は約2.5分の1に短くなっており、第6行~は1~2ヶ月程度の短い行~となる可能性も示唆されます。CH17特異は前兆初現~継続となる可能性もありますが、ここ数日で極大となれば、9/5±に対する極大となり、最近出現継続のCH8を初現としますと、今月末~10月初旬も示されます。いずれにしても、今後を観測し、続報させて戴きます。少なくとも今月下旬以前発生の可能性は無いと判断します。



八ヶ岳のCH17 一定の振幅で幅を持った基線が糸状態となる特異状態出現



2008年07月から出現継続中のNo.1778前兆の全体出現形態簡易模式図 段階的出現